

智翠館特別コース企画 探究スペシャル⑪

道を究める・書の心

— 大書揮毫の実演 —

書道家・卒業生

和田峻之介さん

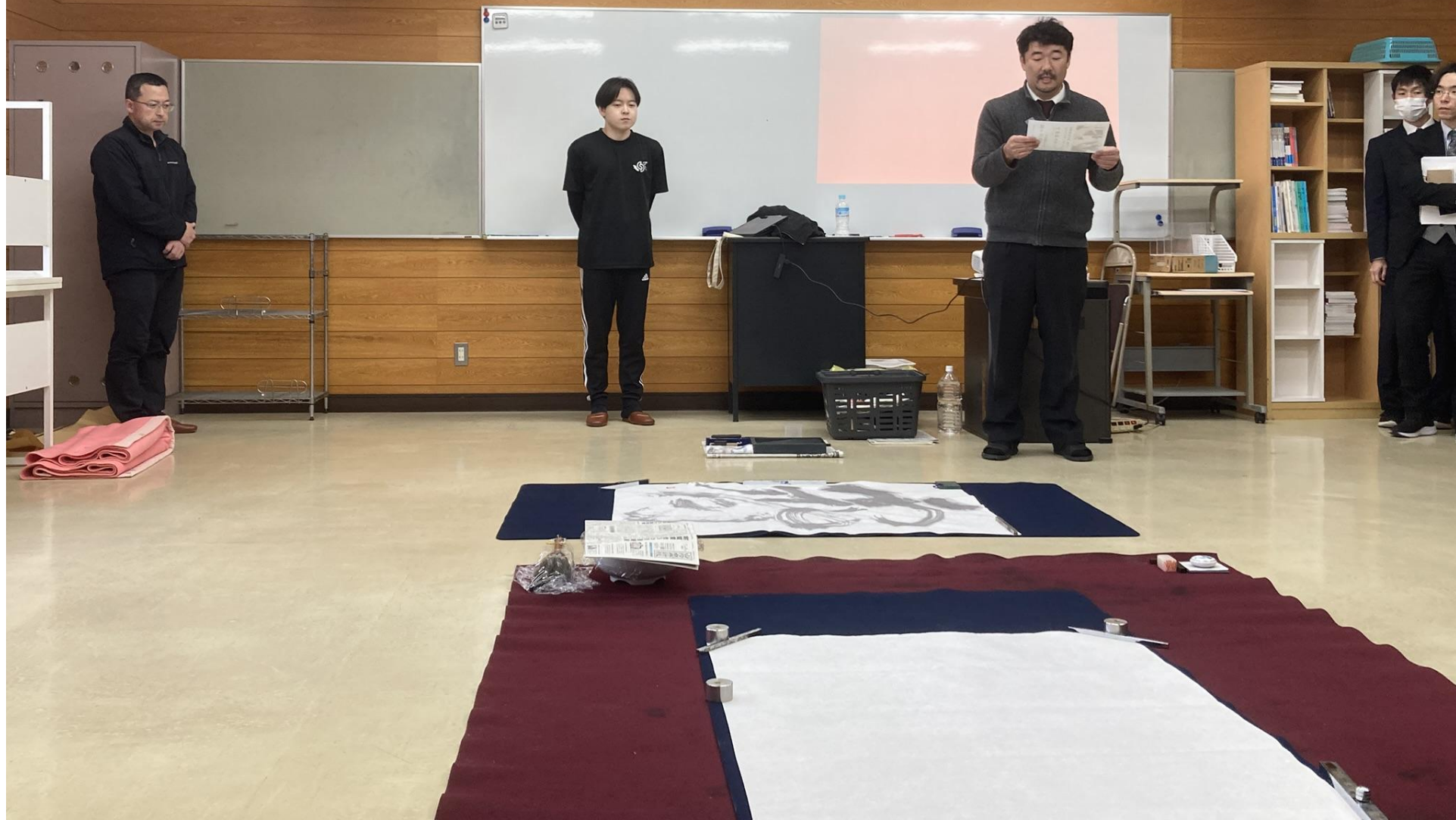
三月十九日（木）

時間は当日連絡

智翠館棟新館 教室五



本日の探究スペシャルは、この春卒業された和田峻之介さんにお越しいただきました。学業の傍ら長年続けてこられた書の世界について、道を究めることの意義とその志を、実際に作品を書いていただくことで皆さんにお伝えできたらと思います。





使っている墨は松煙墨という墨で、松の木を燃やした煤を原料として作られる伝統的な和墨の一種です。青味があり、にじみが非常に美しく、水墨画におけるぼかしや淡墨の表現に最適な松煙墨を今回使っています。「弘法筆を選ばず」の境地に達するまでは、道具にこだわり、準備を念入りにし、環境を整えることが肝要だということで、書を極める道は学問にも通じるということですね！



軽やかに、流れるような筆遣いですね！





最後に印を押して完成です！

完成した作品は学校に寄贈していただきました！



完成した作品は学校に寄贈していただきました！
現在智翠館特別コースの新館に展示しています!!



雨

令和7年度卒業生
和田 隆之介
松井 秀明

作品に込めた想い

「晴」は「はれている」という天候の状態そのものを表すのに対し、「霽」は「雨が降り終わって、はれる」という天候の「変化」を重視して生み出された漢字である。私は「雨のち晴れ」の「雨」を「苦難」、雨が上がった「晴れ（霽れ）」の状態を「成功」という意味として解釈した。苦難を乗り越えて成功へと至る変化と、智翠館特別コースでの私たち自身の変化と成長を重ね合わせ、この「霽」という一字を書くことを決意した。

「霽」が持つ意味を視覚的に表現するため、青墨（松煙墨）独特の性質を活かした。滲みを用い、雨が降っている最中の「しっとり感」を描き出す一方、運筆によるかすれて雨上がりの光が差し込む「晴れの乾燥感」を表現した。青墨ならではの繊細な表情を通して、相反する二つの質感と、雨から晴れへと向かう前向きな変化のエネルギーを感じ取っていただきたい。

校内の展示にあたり、
題字を2年生の升本君
に書いていただきました！



霽

令和7年度卒業生
和田凌之介
題字 升本君